

生産者の声

農事組合法人 ふぁーむ・しどけ
(担い手法人)

農事組合法人を立上げ、地域農業の受け皿として現在、8名で営農活動を実施しています。

パイプラインやフォアスにより、経営面積の拡大が可能になりました。今後、次世代の担い手育成を頑張っていきたい。



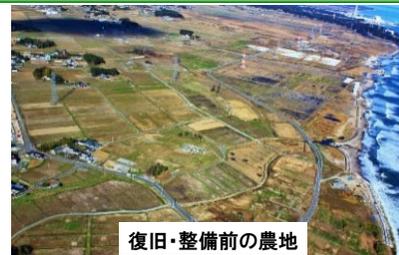
地域の課題

津波による被災→営農再開できない / 効率的な営農が困難

- 東日本大震災の大津波により、集落、地区内の住宅・農地・農業施設に甚大な被害(がれき・津波土砂の堆積、耕作土の流出、地盤沈下など)
- 震災前の農地へ復旧するだけでは、規模拡大は困難
- 限られた担い手が効率よく作業できる農地の整備が必要



津波被災直後の農地



復旧・整備前の農地

事業のポイント!

再度の津波への備え×非農用地の創設 / 農用地の大区画化・集約化

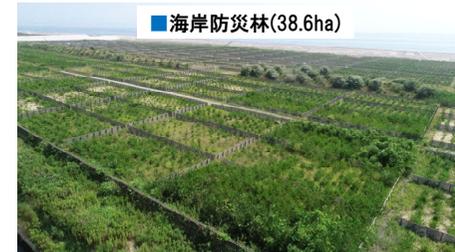
- 南相馬市の復旧復興のモデルとして、トップランナーとしての期待
- 福島県と南相馬市の復興計画に基づいた土地利用の再編。ほ場整備事業により被災地域の復興をけん引する事業用地(ロボットテストフィールド・海外防災林など)を確保。
- ほ場整備による生産性の向上、大区画化により担い手への農地利用集積・集約化



■ 大区画ほ場(330.4ha)



■ ロボットテストフィールド(52.5ha)



■ 海岸防災林(38.6ha)

◆地区の目標◆

- 大区画ほ場を整備
- 用水管理作業の省力化の追求
- 農地の集約、経営の大規模化
- 地域一体となった整備



営農再開されたほ場

◇事業の概要◇

- 事業工期 平成25年度～令和5年度
- 総事業費 104.0億円
- 受益面積 324ha
- 主要工事 区画整理
 - ・ 整地工 A=324.4ha
 - ・ 道路工 L=52.0km
 - ・ 用水路工 L=34.8km
 - ・ 排水路工 L=49.1km
 - ・ 暗渠排水工 A=319.9ha
 - ・ 客土工 A=128.5ha

事業の効果

大区画ほ場による効率的な営農 / 畑地化の促進

- 大型機械導入可能な汎用性の高い農地で効率的な営農を実施
- フォアスの導入によりブロッコリー作付
- 連作障害防止のためブロックローテーションが可能に
- 担い手は3法人と4個人(予定)検討

- ◆ (株)ふぁーむ・しどけ
- ◆ (株)南相グリーンファーム
- ◆ (株)タイハイファーム

※水稲のほか、麦、大豆、ブロッコリーを作付け(予定)



大型機械による麦の収穫



収穫した大豆



ブロッコリー作付け